

2009年4月23日

## 持田シーメンス、乳がん超音波診断装置 あおむけに寝て撮影

持田シーメンスメディカルシステム(東京・品川)は5月に乳がん検診に特化した超音波診断装置を発売する。あおむけに寝た患者の乳房に上部から撮影機構をかぶせて連続撮影する仕組みで、検査時間を短縮するとともに、習熟度の高くない医師や技師も確実に撮影できるようにした。

新製品は縦15.4センチ、横16.8センチの幅で約1分かけて乳房の内部を上から撮影する。検査時間を10分弱に短縮できるという。全体画像を高精細で得られるうえ、断面画像も再構成できるようにした。病変部の広がりも高精細な画像で確認できる。価格や販売目標は未定。

以上